

2014年度(2015年3月期) 決算説明会



2015年5月14日

大正製薬ホールディングス株式会社

代表取締役社長 上原 明



2014年度通期決算：概要

(億円)

	2013年度	2014年度	前期比増減		予想比*
売上高	2,960	2,905	▲55	▲1.8%	▲0
セルフメディケーション	1,818	1,763	▲55	▲3.0%	▲1
医薬	1,142	1,142	▲0	▲0.0%	+1
営業利益	417	320	▲97	▲23.3%	+30
経常利益	512	396	▲117	▲22.8%	+26
当期純利益	327	245	▲82	▲25.0%	+5
1株当たり当期純利益(円)	403.18	302.57	-	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

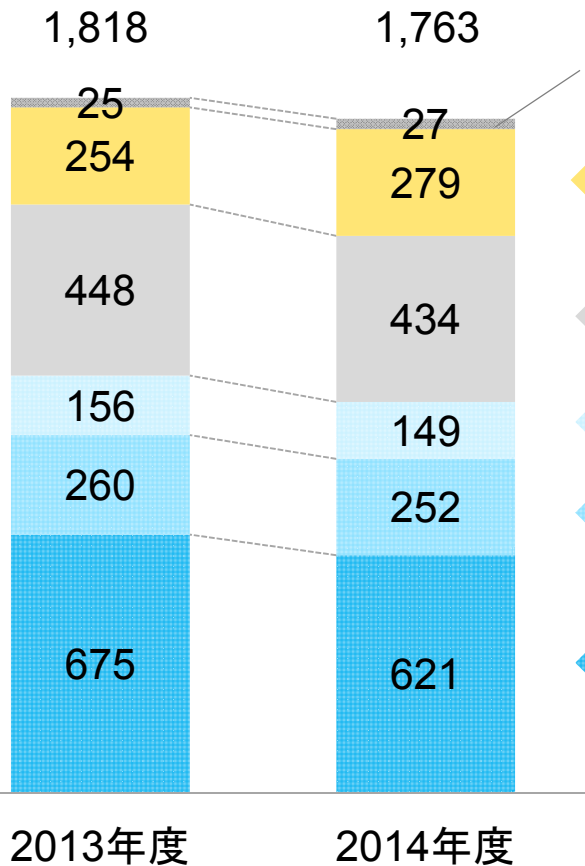
*2015年1月30日時点予想との対比



2014年度通期の概況：SM事業

SM事業売上高（億円）

内訳（前期比増減）



その他

海外（+26億円、+10.1%）

国内その他

リアップシリーズ

パブロンシリーズ

リポビタンシリーズ

ほぼ計画通りの推移

X5が伸長するも、消費増税の影響をカバーできず

国内合計（▲82億円、▲5.4%）

最盛期にかぜ・インフルエンザが早期終息

夏場の天候不順、消費増税による仮需の反動、市場のダウントレンド

注：金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況>

- 国内OTC医薬品市場：前期比（4～3月）▲3.9%
（インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース）



2014年度通期

SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2013年度	2014年度	前期比増減		予想比*
			▲	▲	
リポビタンシリーズ	675	621	▲54	▲8.0%	▲3
パブロンシリーズ	260	252	▲8	▲3.2%	▲2
リアップシリーズ	156	149	▲6	▲4.1%	+4
リビタシリーズ	47	40	▲6	▲13.6%	▲0
胃腸薬シリーズ	43	41	▲2	▲5.1%	+0
ナロンシリーズ	41	37	▲4	▲9.6%	▲1
ヴィックスシリーズ	32	35	+2	+7.3%	+1

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2015年1月30日時点予想との対比



2014年度通期 SM海外：売上高

(億円)

	2013年度	2014年度	前期比増減		予想比*
SM海外	254	279	+26	+10.1%	+2
海外ドリンク剤	90	94	+5	+5.2%	+0
海外OTC医薬品	155	176	+21	+13.5%	+2
アジア	132	148	+17	+12.6%	+1
その他	23	27	+4	+18.6%	+0

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

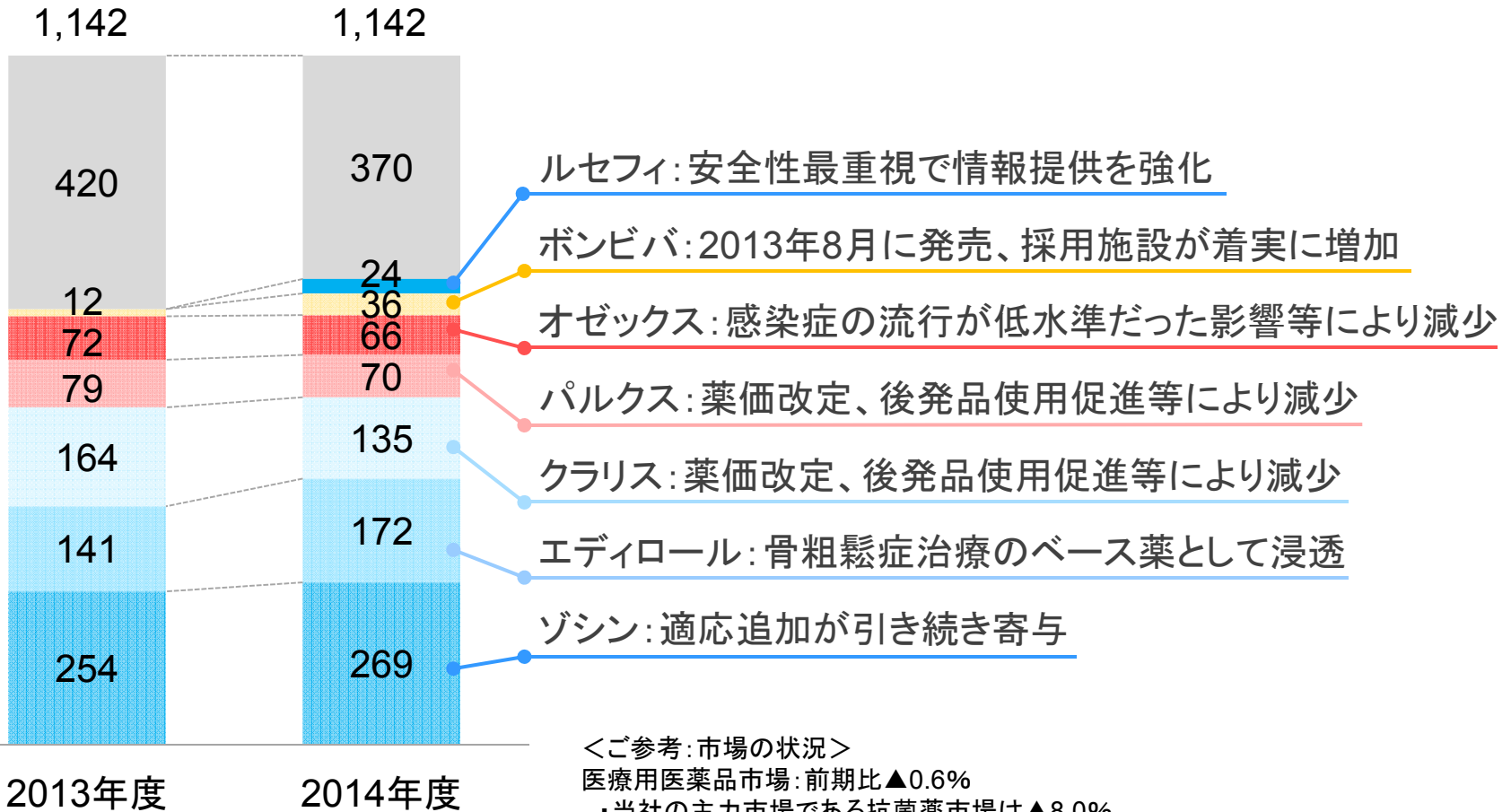
*2015年1月30日時点予想との対比



2014年度通期の概況：医薬事業

医薬事業売上高 (億円)

内訳



<ご参考:市場の状況>

医療用医薬品市場: 前期比▲0.6%

・当社の主力市場である抗菌薬市場は▲8.0%

(経口: ▲10.5%、注射: ▲4.7%)

(Copyright 2015 IMS ヘルス、JPM2013年4月-2015年3月をもとに作成、無断転載禁止)

注:金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算



2014年度通期 医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2013年度	2014年度	前期比増減		予想比*
			増減額	増減率	
ゾシン	254	269	+16	+6.1%	+4
エディロール	141	172	+31	+22.0%	+7
クラリス	164	135	▲30	▲18.0%	▲3
パルクス	79	70	▲8	▲10.6%	+0
オゼックス	72	66	▲6	▲8.3%	+2
ボンビバ	12	36	+24	+194.2%	+0
ルセフィ	-	24	+24	-	▲3

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2015年1月30日時点予想との対比



2014年度通期：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (▲55億円)	セルフメディケーション事業 (▲55億円)	医薬事業 (▲0億円)
営業利益 (▲97億円)	売上総利益* ▲64億円 (売上総利益率* 前期62.4% → 当期61.4%)	
	販管費 +33億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲3億円
	・広告宣伝費	+22億円
	・販売促進費	+12億円
	・人件費	▲16億円
・その他	+18億円	
営業外損益：持分法投資利益 3億円(前期比▲22億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2015年度：通期業績予想

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前期比増減	
売上高	2,905	2,950	+45	+1.5%
セルフメディケーション	1,763	1,805	+42	+2.4%
医薬	1,142	1,145	+3	+0.3%
営業利益	320	270	▲50	▲15.6%
経常利益	396	350	▲46	▲11.6%
当期純利益	245	220	▲25	▲10.3%
1株当たり当期純利益(円)	302.57	271.42	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2015年度予想

SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前期比増減	
リポビタンシリーズ	621	614	▲7	▲1.1%
パブロンシリーズ	252	250	▲2	▲0.7%
リアップシリーズ	149	150	+1	+0.4%
リビタシリーズ	40	42	+2	+4.5%
胃腸薬シリーズ	41	41	▲0	▲0.5%
ナロンシリーズ	37	37	▲0	▲0.8%
ヴィックスシリーズ	35	35	+0	+0.4%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2015年度予想 SM海外：売上高

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前期比増減	
SM海外	279	299	+20	+7.0%
海外ドリンク剤	94	97	+3	+2.9%
海外OTC医薬品	176	193	+17	+9.9%
アジア	148	163	+15	+10.0%
その他	27	30	+3	+9.3%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2015年度予想

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前期比増減	
ゾシン	269	270	+1	+0.2%
エディロール	172	188	+16	+9.6%
クラリス	135	126	▲9	▲6.3%
パルクス	70	66	▲4	▲6.4%
オゼックス	66	61	▲5	▲7.6%
ボンビバ	36	60	+24	+66.2%
ルセフィ	24	40	+16	+67.5%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2015年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+45億円)	セルフメディケーション事業 (+42億円)	医薬事業 (+3億円)
営業利益 (▲50億円)	売上総利益* +42億円 (売上総利益率* 前期61.4% → 当期61.8%)	
	販管費 +91億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+52億円
	・広告宣伝費	+29億円
	・販売促進費	▲1億円
	・人件費	+7億円
・その他	+3億円	
営業外損益：持分法投資利益 9億円(前期比+6億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2015年度の取り組み

• セルフメディケーション事業(国内)

需要を創造し、強いブランドを作る活動を強化

✓ 既存事業

- ・主カブランドを中心に、生活者のニーズに対応した新製品を投入

→ 既存ブランドの売上を維持

✓ 今後の成長へ向けた取り組み

- ・新しいブランドの育成
- ・生活者との直接のコミュニケーションの強化



2015年度の取り組み

- セルフメディケーション事業(海外)

連結売上高比率10%を達成し、更なる成長に向けた
基盤づくりに取り組む

- ✓ 引き続き、東南アジアを中心とした成長市場での事業展開を強化
- ✓ 買収資産の価値最大化に向けて、
Counterpain、*Tempra*の新製品を投入
- ✓ 自社創製の医療用医薬品の東南アジアでの展開に着手



2015年度の取り組み

- 医薬事業

これまでに培った基盤の強化と、新製品の早期育成および
研究開発のスピードアップに取り組む

- ✓ 感染症領域におけるリーディングカンパニーとしての地位を維持しつつ、新製品の早期育成を目指す
- ✓ 国際的に通用するオリジナリティの高い新薬の研究開発に一層注力するとともに、国内外の企業からの有望候補物質の導入や共同開発を進め、パイプラインの充実に努める



医療用医薬品：開発品の状況

- 大正製薬開発品：2014年度第3四半期決算発表時（2015年1月30日）からの変更点

（2015年5月13日現在）

CT-064（経口剤：イバンドロン酸ナトリウム水和物）	
予定適応症	骨粗鬆症
変更点	2015年2月10日に製造販売承認申請を行った



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2015年5月13日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態 国内／海外	オリジン
申請中			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症	トクホン共同 国内	トクホン
CT-064* (経口)	<u>ビスホスホネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同 国内	ロシュ
フェーズ2			
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社 国内	大正製薬

*CT-064：一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コード：RG484



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：フェーズ1

(2015年5月13日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-111 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	海外

*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



研究開発費の動向

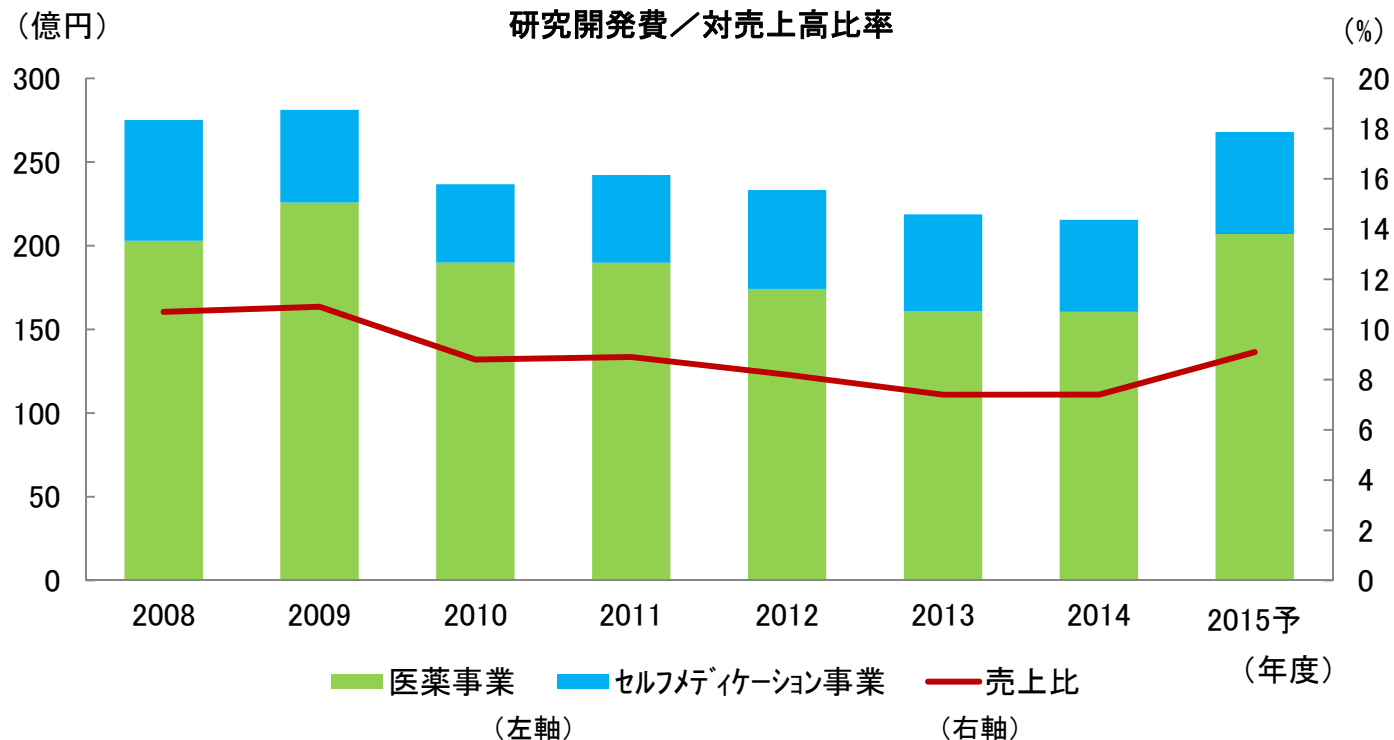
2014年度実績:216億円(前期比▲3億円)

(内訳)セルフメディケーション事業:▲3億円

2015年度予想:268億円(前期比 +52億円)

(内訳)セルフメディケーション事業: +6億円

医薬事業: +46億円





株主還元について

- 2014年度配当：
 - 1株当たり110円(配当性向:37.3%*)
 - (中間50円、期末60円)
- 2015年度配当(予想)：
 - 1株当たり100円(配当性向:36.7%*)
 - (中間50円、期末50円)
- 配当、自社株買いの方針は変更なし
 - 配当性向30%(特別損益を除く)を目途、持続的な安定配当の実施を目指す
 - 特段の事情がない限り、1株当たり100円の年間配当を維持する

*配当性向は、特別損益を除いた当該期純利益により算出



大正製薬グループの方向性

- 「セルフメディケーション事業」と「医薬事業」をバランスよく成長させながら、企業価値の最大化を目指す

その実現に向けて

- セルフメディケーション事業
 - 国内：新ブランド、新事業への投資
 - 海外：買収した資産の有効活用と新たな成長の基盤づくり
- 医薬事業
 - 新製品の売上拡大と将来の収益に寄与する新薬の上市に向けた研究開発に注力